

22. ケースの並べ替えと一覧表の作製

22.1 ケースの並べ替えが必要な場合

SPSS では、通常、統計計算を行ううえで、ケースの並べ替えを必要としません。

しかし、クラスター分析の分析結果は、データファイルのケースの並び方が違うと、同じデータ・セットを使っても、結果が異なることがあります。したがって、結果を再現するためには、あらかじめ、SPSS のデータファイル上でケースの並びを同一にしておく必要があります*。

*達人 B 方式 (→ 1.4 達人への道へ行こう) に忠実にしたと、テキストファイルの素データ・ファイルの並びからつねに出発することになるので、生成した SPSS データ・ファイルを実験過程で並べ替えないかぎり、このような心配はありません。しかし、なんらかの事情で、SPSS データ・ファイルを実験データ・ファイルとして扱い (→ 2.3.2 SPSS データファイルを実験データ・ファイルとして扱う)、異なる形式のデータファイルの変換を参照)、分析過程で書き直してしまうと、並べ替え問題が生じます。

また、クラスター分析の結果を検討するのに、クラスター番号順に並び替えて、千ケースの一覧表をつくりたい場合もあるでしょう。

ここでは、ケースの並べ替え `sort cases` と一覧表の作製 `report` について述べます。

22.2 SPSS データ・ファイル上でのケースの並べ替え

たとえば、`v1` という変数をキーとして、昇順 (値の小さい方が先に来るように) にケースを並べ替えたい場合には、

```
sort cases v1.
```

を実行します。

一般的には、つぎのようになります。昇順はデフォルトですが、変数名の後ろに (a) と指示してもできます。降順の場合には (d) と指示します。

昇順

```
sort cases 変数名.
```

降順

```
sort cases 変数名 (d).
```

変数名のところに変数リストを入れると、複数の変数をキーとして並べ替えができます。

sort cases は、SPSS データ・ファイル上で、ケースの並べ替えをするだけなので、データ・ファイルの覗かないかぎり、結果は見えません。

22.3 一覧表（報告書）の作製

いくつかの変数について、ケースごとの一覧表をつくる場合に、report コマンドを使います。

たとえば、市区町村データについて、市区町村名 area をラベルで、クラスター番号を示す変数 clu95a7 をクラスター番号で、一覧表にしたい場合、

```
report /format automatic list/ variables area (label) clu957a.
```

とします。一般形式は、

```
report /format automatic list/ variables 変数名1(label) 変数名2 (label).
```

となります。(label)を削除すれば、コードが出力されます(値ラベルを貼っていないければ、もちろん label のオプションは無効です)。また、変数を並べすぎると、表に収まりきれなくなり、出力できないというメッセージが出ます。format を具体的に指示することもできるはずですが、やったことはありません。必要な人は、研究してみてください。

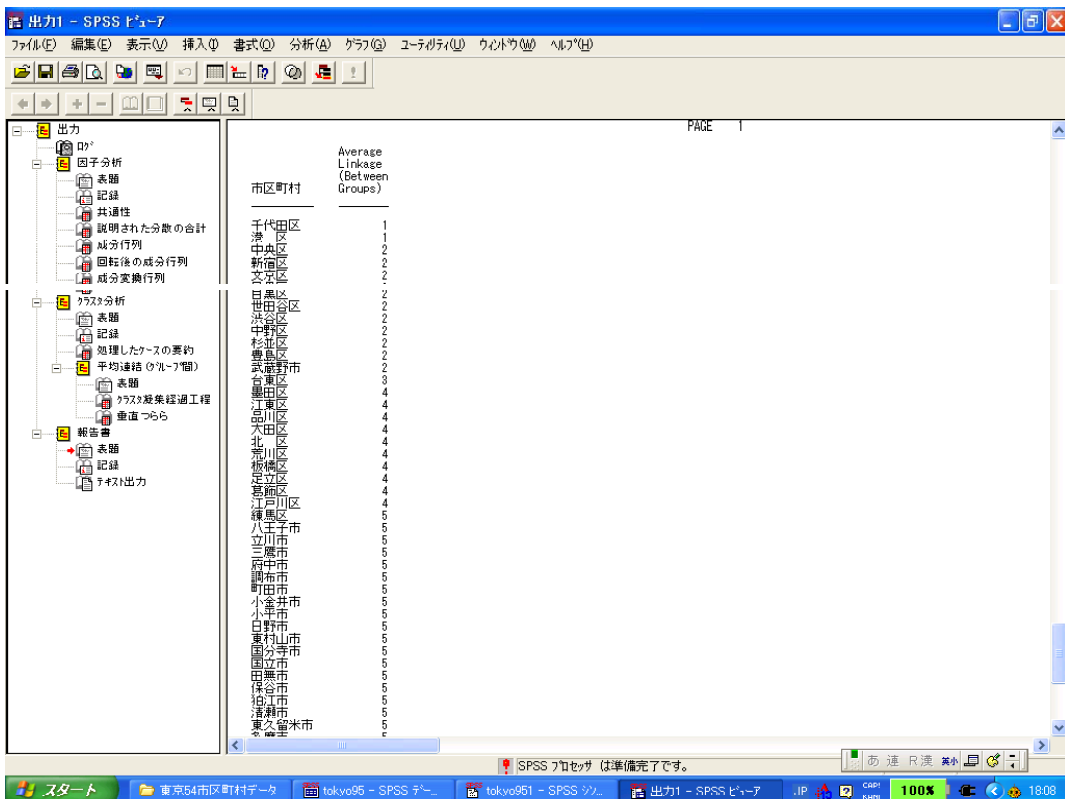


図 22.1 report コマンドの出力結果の例